

学校経営方針

校長 山口 義一

1. 学校教育目標

○たのしく学ぶ子 ○はつらつと活動する子 ○ともに歩む子

2. 目指す学校像(ビジョン)

「笑顔あふれる学校」 ～感動の共有～

- (1)「わかるようになった」「できるようになった」喜びにあふれる学校
- (2)体も心も鍛え、生き生きとした元気あふれる学校
- (3)人とのかかわりを大切にし、仲良く助け合う優しさあふれる学校
- (4)家庭及び地域社会に信頼される開かれた学校

3. 具体的方策

(1)「わかるようになった」「できるようになった」喜びにあふれる学校

① 授業力の向上

- ・子供のポケットに何を入れたいのか(本時のねらい) はっきりさせる。授業の終わりに子供に「今日の授業でどんなことがわかったの?」と聞いたときにどのように言ってほしいのか子供の言葉で表現してみる。
- ・それをできるだけ児童自らの力で獲得させるにはどうしたらよいか考える。
→知識や技能を教え込むのではなく、児童に考えさせ、考えたことを書かせたり発表させたりして、お互いの考えを比較検討し、課題についてまとめさせる。(思考力・判断力・表現力の育成)
- ・学力調査(国、都)の分析、改善策の策定
- ・あまり欲張らない。5分くらい早めに終わるように計画する。
- ・学年等でよい授業づくりのための情報交換をする。
- ・お互いに授業を見あう。模擬授業の実施。
- ・外部の研究会に積極的に参加し、よい情報を伝える。→自分の専門教科をもつ。

② 望ましい学習習慣を身に付けさせる。

- ・正しい姿勢、鉛筆の持ち方、下敷きを敷く等継続指導。
- ・指名されたら「はい!」と返事、立って発言。→よい返事、発言の仕方等はその場でほめる。
- ・発言は一番遠くの人に聞こえるように言わせる。→先生にだけ言うのではない。
- ・「話し上手」を作るには、まず「聴き上手」を作る。
→①静かに聴く ②相手を見て聴く ③わかったらうなずきながら聴く
- ・机の上の整理、ノートにどのように書くか等、具体的に指導する。
- ・書く量を調整する。

③ 形成的評価を生かし、指導の改善を行う。

- ・単元の途中で、一人一人の学習状況を記録する。→座席表、名簿等の活用
- ・誰がどのようなつまづきをしているか早期に発見し、次時の指導に生かす。
- ・評価の目的は、意欲の向上と指導の改善。
- ・「ここまで出来ているよ。」「こうすればできるよ。」こまめな声かけをして意欲を向上させる。
- ・自力解決の時間をうまく取り入れ、そこで個別（小集団）指導を行い、できるだけ早く手当てをする。
- ・単元末などの習熟の時間などは、個に応じた課題を用意するなど習熟度に応じた指導をする。

④ 外国語活動の充実

- ・ALT、外国語活動アドバイザー、英語ボランティアなどの人的資源や、今までの外国語活動の実践の蓄積を生かし、指導の充実を図る。
- ・校内研究を通して、教員の外国語活動における指導力向上を図る。
- ・全学年で外国語活動を実施し、早期に外国語の音声や基本的な表現に親しませながらコミュニケーション能力の素地を養う。
- ・小中一貫教育研究グループで、中学校や近隣小学校と共に9年間を見通したカリキュラムの改善を図る。

⑤ 読書活動の推進

- ・読む力は心を育てると同時に、すべての学力の基礎であり、調べ学習の土台になる。
- ・朝読書の時間（火曜日）を有効に活用する。読書の時間を確保する。
→教師も児童も一緒に読書を共有する時間とする。
- ・読書指導を年間を通して計画的に実践する。
- ・発達段階に応じた方法で読書記録を書くことで、自分の読書歴を振り返り意欲を向上させる。
- ・学校図書館の環境整備を行い、児童の情報収集・選択・活用の能力を育成する。
→学習情報センターとしての学校図書館の活用
図書館ボランティア、図書館開放指導員、近隣図書館との連携
団体貸し出し：最大300冊、最長3ヶ月、調べ学習に使う資料
図書館見学：館内の案内、説明
調べ学習の支援：来館した児童に資料が閲覧できるように工夫
学校訪問：本の紹介、ブックトーク、本の探検ラリー、図書館の利用案内など
- ・学校図書館活用のルールのご理解と指導の徹底

⑥ 家庭学習を充実させる。

- ・望ましい学習習慣について学校と家庭で共通理解を図る。
→たより、HP等での情報発信
- ・宿題の量、内容、頻度、方法などについて学年で共通理解する。
→保護者は学級によってあまりにも差があると不安になる。基本の形はそろえておく。
- ・漢字練習、計算練習などは、継続的に練習させる。→計算は、答え合わせ、間違いなおしまで。

(2) 人とのかかわりを大切に、仲良く助け合う優しさあふれる学校(いじめに強い学校作り)

① 自尊感情を高める。(他尊感情を高める) 自分が人から認められている

- ・どの児童も学級、学年、学校の大切なメンバーであると、教師自身が受け止め、発信し続ける。

- ・マイナスのイメージが強い児童のよいところを、具体的に紹介する機会を意識的に作る。
- ・「できないことを叱って終わるのではなく、できるようにしてほめて終わる。」指導を実践する。
- ・「問題のない学級がよい学級ではなく、問題を解決できる学級がよい学級である。」という認識に立ち、問題を改善のチャンスと受け止め、「このクラスならきっと解決できる。」というメッセージを発信し続ける。(教員が一人で抱え込まない)

② 特別支援教育の充実

- ・児童の実態を把握し、個別の指導計画、個別の教育支援計画を作成し、計画的、教職員、保護者、関係機関等と連携した支援ができるようにする。
- ・特別な配慮を要する児童についての情報や具体的な対応の仕方など全教職員が共通理解する場を作る。
- ・特別支援教育について研修を行い理解を深める。(外部研修参加、図書資料活用)

③ 挨拶、返事の指導を徹底する。

- ・「挨拶をしなさい。」ではなく、こちらから「おはよう！」と明るく挨拶することを続ける。
- ・返事は、元気のよいことも大事だが、まずは歯切れの良さ(「ハ」と「イ」とくっつける)を要求したい。声が小さくても歯切れのよい返事ができたらほめる。「今の返事でいいから、もう少し大きな声でできるかな？」と少しずつ要求していく。
- ・授業の中での指導を徹底する。

④ 友達とかかわる楽しい活動を実施する。

- ・校内研究で学級活動について学んだことを活かして、学級活動の改善を図る。
→学級活動の時間は、週1時間ある児童が自由に使える時間である。(一定の制限はあるが)この時間を使って、楽しい活動をたくさん経験させたい。
学級活動(1)(話し合いと集会、係活動)及び学級活動(2)を計画的に見通しをもって行うことが大切。
- ・特別活動における実践的な活動の中で、道徳性の育成を図ることができる。
- ・困っている人や弱い人を助けた人、自分のことよりみんなのことを考えて行動した人など見つけて具体的にほめる。
- ・話し合いや集会の後は、必ず「先生のお話」の時間を作り具体的に評価する。
- ・週に1回くらいみんなで遊ぶ日を作り、集団で遊ぶようにするとよい。
→教師も一緒に遊んだり、その場の様子を見たりしながら一緒に楽しむとよい。

⑤ みんなで歌声を響かせる。

- ・音楽朝会だけでなく、学級でも歌を歌う時間を取り入れたい。(音楽朝会の歌の練習)
→1週間に1回くらいは歌う機会を設定する。教師も一緒に歌う。歌う歌は、子供の希望を取り入れることもよいが、歌詞の内容やみんなが歌いやすいものなど配慮は必要。

⑥ 給食や掃除の時間の指導を充実する。

- ・「何を」「だれが」「どのように」やるか明確にしておく。実際にどのように行われているか「後を見る」ことが大切。このような活動を通して、責任を果たすことや協力することなど体験的に学ぶことになる。
- ・生活指導部で給食指導や清掃指導の共通理解を深める。

⑦ 道徳教育の要となる道徳の時間を充実させる。

- ・ 校内研究の成果を生かし、道徳の授業改善を図る。
- ・ リアリティと感動のある資料、議論を取り入れた指導など指導の工夫を行う。

(3) 体も心も鍛え、生き生きとした元気あふれる学校

① 児童の基礎体力、運動能力の向上

- ・ 体育の授業における運動量を確保や運動の質の向上を図る。
- ・ 新体力テストを活用して実態を把握し、指導の改善に活かす。
→体育部で結果の分析、課題の把握を行い、具体的な取り組みを提案する。
- ・ 他校の取り組みを調べ、有効なものを取り入れる。
- ・ 外遊びを励行する。
→時には、教師も一緒に遊びに参加し、児童の様子を把握したり、新しい遊びを紹介したりするとよい。(3色鬼、ゴムだん、縄跳び、竹馬、Sケン、ドロケイ・・・)

② 食育の推進

- ・ 好き嫌い無くよく食べるクラスを目指す。→野菜や魚などみんなで少しずつ多く食べるよう要求していく。(アレルギーには配慮)
- ・ 個に応じて食べる量を調節しながら、少しずつ食べられる量を増やしていく。
- ・ 食育年間指導計画に基づいた指導を行う。
- ・ 食育リーダー、栄養士、養護教諭、給食室、保護者、学校医と連携を図り、食に関する指導の情報を提供し、日常の指導にいかす。→全校での共通理解

③ 縄跳びやマラソンの取り組み

- ・ 体育の授業や休み時間などで継続的に取り組む。→カードを活用して努力の後が見えるようにする。
- ・ 縄跳びの取り組みでは、運動委員会を活用して、主に低学年に跳び方を教えたり検定をしたりする。

(4) 家庭及び地域社会に信頼される開かれた学校

① HP による情報発信

- ・ 管理職、専科で計画的に情報発信していく。

② 学級だよりの作成

- ・ 簡単なものでよい。学級の様子を伝える。月1回ぐらい出せるとよい。
- ・ 保護者が一番知りたいのは、自分の子供の学級の様子。楽しいエピソードなども入れて伝えてほしい。

③ 学校公開、道徳授業地区公開講座などの実施

- ・ クラスや学年での学習発表会などにも参加を呼びかける。→事前に管理職に相談を
- ・ ゲストティーチャーなど呼ぶ場合も、事前に管理職にご相談ください。

④ 学校関係者評価の実施

- ・ 学校評議員会を年3回開く。本校の教育活動を説明し、意見を交換すると共に、本校の教育

活動を見ていただいたり、アンケート、自己評価などの結果をお示ししたりして、次年度の教育活動の改善にいかす。

- ・ 写真やグラフ等を活用した見やすい資料を作成する。

⑤ 家庭・地域に信頼される教職員

- ・ 電話の対応でその学校が判断される。→「豊溪小学校、職員室、〇〇でございます。」、伝言は確実に。
- ・ 報告を大切にす。→依頼されたことの実行、児童の様子 「職務の完了は、報告をもって完了とする。」
- ・ 来客への対応→やりかけの仕事を一端やめ、立って対応する。
- ・ 体罰、個人情報管理、会計事故、セクハラ、飲酒・・・→勤務時間外も公務員として立場は変わらない。
- ・ 地域の行事にボランティアとして参加、協力する。
→保護者や地域の人もボランティアで子供たちのために働いている。参加できる日、参加できる時間帯だけでもよいので、可能な範囲で参加して欲しい。

⑥ 安全・整頓された学校

- ・ 安全教育の充実、実践→安全教育プログラムの活用
- ・ 危険なところ、壊れているところ、汚れているところを無くしていく
- ・ 1日の終わりの教室を整理整頓して、凜とした形を作って翌朝子供を迎える。
→机・いすの整頓、黒板、ラーフル（黒板消し）、チョーク、ゴミ箱を毎日からにする。
- ・ トイレ、流し、傘立て、靴箱、昇降口などみんなが使うところをきれいに使う指導を徹底する。
- ・ 先生がいないときの補教、最終補教者及び学年で最終確認を。
- ・ 掲示物をきちんと貼る→表題やねらいなどを掲示する。
- ・ 図工の作品を校内に飾り、温かい雰囲気を作る。
- ・ いじめ、問題行動など見つけたら、みんなで声をかけてとめていく。→情報の共有

ポケット&コマ

- * ポケット：ねらいをいつも意識して計画、実施、振り返り、改善する
- * 回っているコマは倒れない：いつも改善すべき点はないか考え、改善していく。